

おにいちやんのいちだいじ

新見市立神代小学校

一年 にしかわ みなと

「いたい！」

おおきなこえがきこえた。ふりむくと、おにいちやんがうんていからおちて、うずくまっていた。ぼくは、すぐにおにいちやんのところにかけてつけた。おにいちやんはすぐくいたがつてうなっていた。ぼくは、しんぞうがどきどきした。せんせいやともだちがあつまつてきて、すこししておかさんもきた。おかあさんがきたとたん、おにいちやんが、

「うわああん。」

となきでした。ぼくもなきだしそうだった。

おにいちやんとおかあさんはすぐにびょういんへいった。おとうさんもそのあとびょういんへいった。でんわがかかっておにいちやんは、しゅじゅつをして、にゅういんしなければいけなくなつたときいた。ほんとうは、ぼくもすぐにびょういんへいきたかつた。おにいちやんのがことがすぐくしんぱいだつた。いえには、ぼくともうとと、おじいちゃんとおばあちゃんだけになつた。みんなだまつてしずかだつた。

そのひのよる、なんだかすごくきみしくなつて、ぼろぼろとなみだがでてきた。

「おにいちやあん。」

どんななみだがでた。そのままぼくは、なきつかれてねむってしまった。

五日して、おにいちやんがたいいんしていえにかえつてきた。左うでは、ギプスがされていて、まだいたそうだったから、ぼくはおにいちやんのおてつだいをすることにきめた。おふろのときにタオルでふいたり、すいとうをいれたりするのをてつだつた。

「みなと、ありがとう。」

とおにいちやんにいわれて、なんだかこころがぽかぽかした。たまにけんかもするけど、ぼくはおにいちやんのがだいすきだ。

早くなおつて、いっしょにやきゅうやサッカーがしたいなあ、おにいちやん。